

RS50 ペダル

セットアップガイド



logitech

組み立て手順

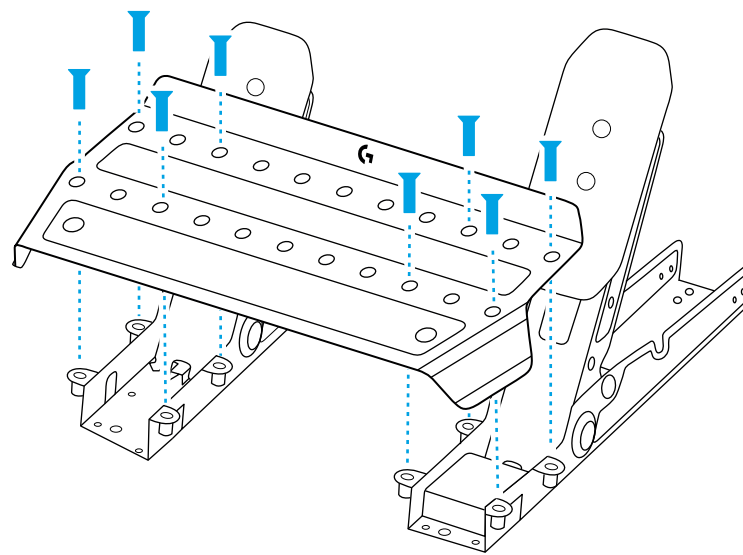
ペダルモジュールは、ヒールプレートに設けられた取り付けポイントの、任意の位置に取り付けることができます。

デフォルトで提供される2ペダルセットアップの場合、アクセルペダルとブレーキペダルは、安定性を確保するため、ヒールプレートの両端に配置することが一般的に（フロアに設置して使用される場合は特に）推奨されています。（シミュレーターリーグ/チェアに取り付ける場合はより柔軟に配置できます）。

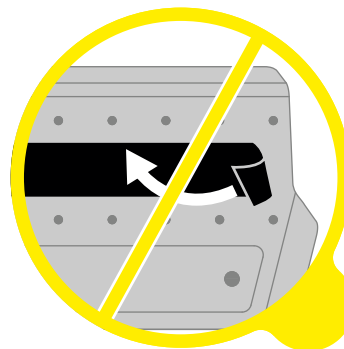
付属の六角レンチを使い、各ペダルモジュールを小さな皿ボルトでヒールプレートに取り付けます。



x8

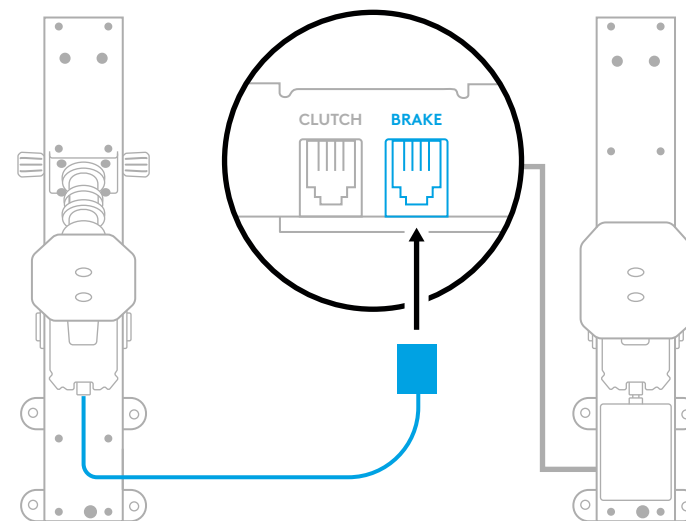


注: ヒールプレートの裏側に付いている導電性フォームのストリップは、どのような場合も取り外さないでください。これを取り外すと、ペダルの機能が損なわれる恐れがあります。

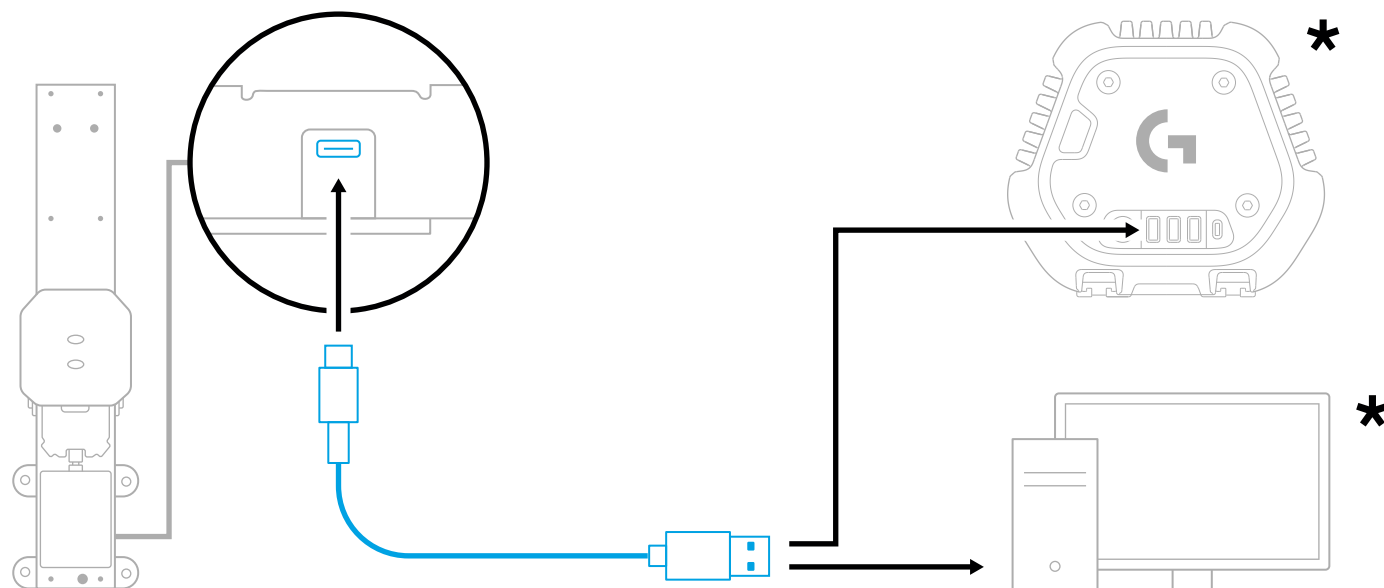


組み立てが完了したら、ブレーキペダルモジュールをアクセルペダルモジュールの左側にあるブレーキポートに接続します。

お好みに応じて、ケーブルの位置調整に、粘着性のケーブルクリップを使用できます。その場合、ケーブルをクリップに挿入してからクリップの裏面の保護シートを剥がし、クリップをヒールプレートの裏面に貼り付けます。



ホストへの接続



付属の USB ケーブルを使って、ペダルモジュールの右側にあるポートから、次のいずれかに接続します。

- 対応するロジクールレーシングホイール (RS50 や PRO ホイールなど) の USB ポート
- ロジクール G レーシングアダプターの USB ポート (G29、G920、G923 などの旧型ステアリングホイール (別売) に RS Pedals を接続する場合。)
- PC の利用可能な USB ポート

注: コンソールでプレイする場合は、RS Pedals の接続先として、コンソールの USB ポートではなく、使用しているロジクール製ステアリングホイールを使用する必要があります。

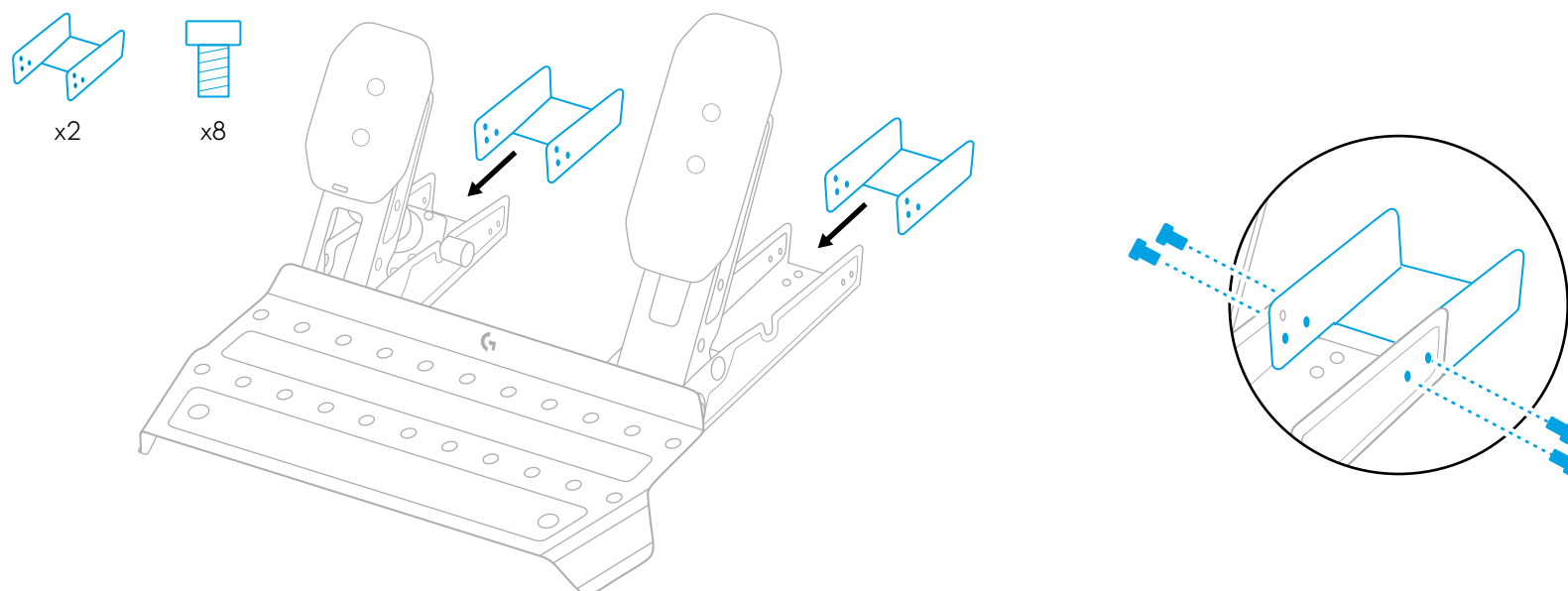
PC でプレイする場合は、ほとんどのタイトルで、ペダルが独立した USB デバイスとして動作していれば、それがロジクール製のステアリングホイールでも他のメーカーのものでも問題なく認識します。ただし、ゲームタイトルによっては、ペダルをロジクール製ステアリングホイールに接続した方がうまく動作する場合があります。これはタイトルごとに複数の周辺機器に対するサポートレベルが異なるためです。

*別売

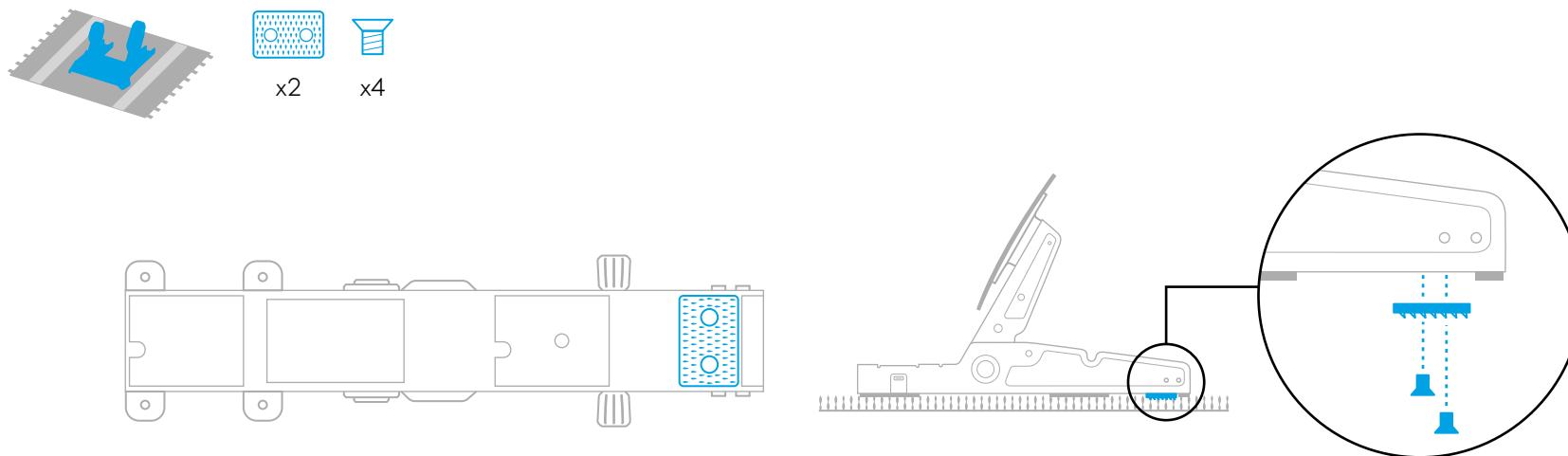
フロアで使用するためのエクステンダーの取り付け

RS Pedals は、フロアで使用する際にも安定性を確保できるように設計されています。これに対応するため、ペダルに1組のエクステンダーが付属しており、要件に応じて2方向のいずれかに取り付けることができます。

オープンフロアに設置する場合、エクステンダーは水平の位置に取り付ける必要があります。

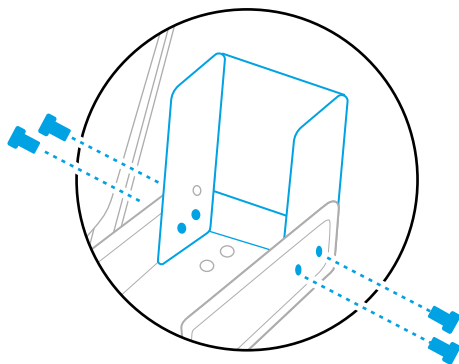


カーペット上で使用する場合、ペダルが動かないようにするカーペットグリップが付属しています。これらは小さな皿ボルトを使って取り付けることができます。



硬い木のフローリングのフロアに設置する場合、各ペダルモジュールには、安定性を確保するためのラバーフィートが既に取り付けられています。

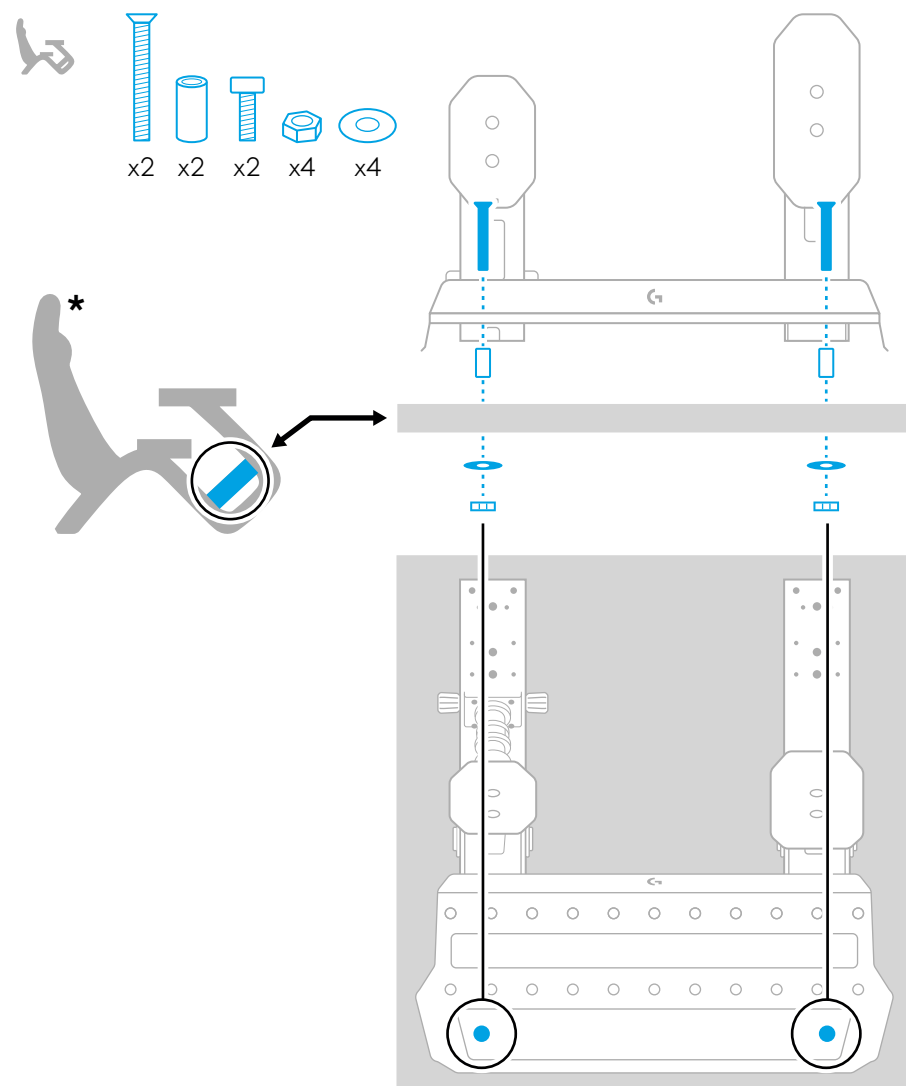
ペダルを壁に固定する場合は、エクステンダーを垂直の位置に取り付ける必要があります。



注: カーペット上でペダルを使用する場合、この構成ではカーペットグリップが不要な場合があります。

シミュレーターリグ/チェアへの取り付け

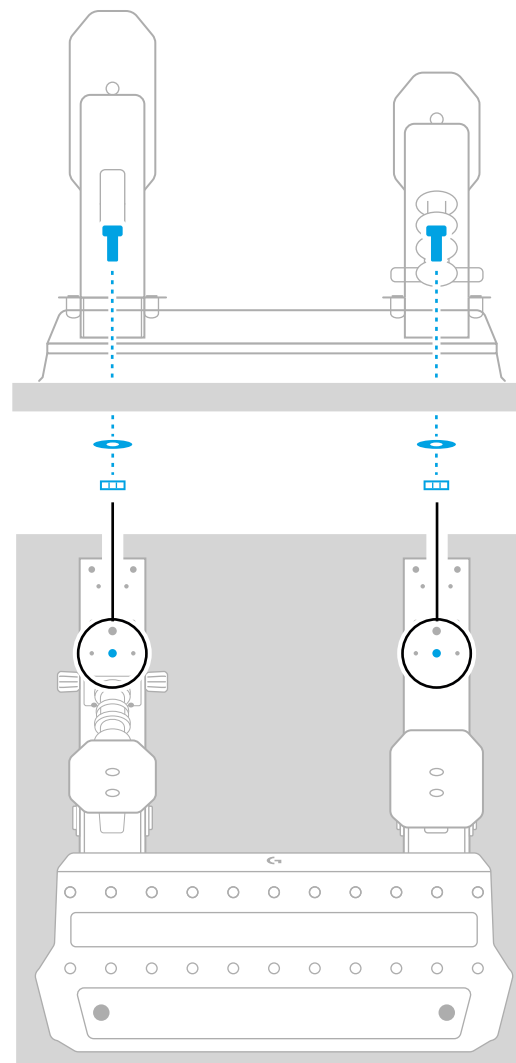
付属の取り付けボルトとナットを使用すると、ほとんどのシミュレーターリグ/チェアに簡単に取り付けられます。こういった構成の大半では、ヒールプレートの前寄りにある大きな皿穴を、各ペダルモジュールの後ろにある穴と組み合わせて使用することをお勧めします。



ヒールプレートの取り付け穴には、長い方の皿ボルトと大きいプラスチック製スペーサーを使用する必要があります。これらがヒールプレートを支え、ボルトを締めたときにヒールプレートが反らないようにします。

*別売

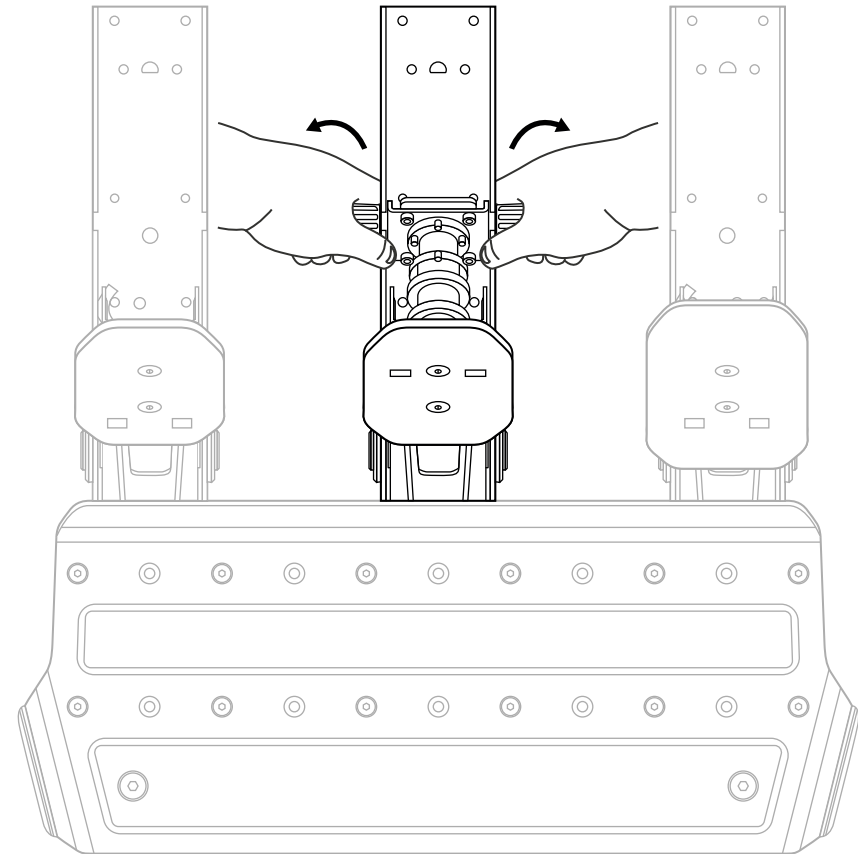
ペダルモジュールの後部付近の穴を使う場合、ブレーキモジュールのダンパースタックを一時的に取り外すと簡単な場合があります。これは、マニュアルの次のセクションで説明します。



ロードセルブレーキの物理的抵抗の調整

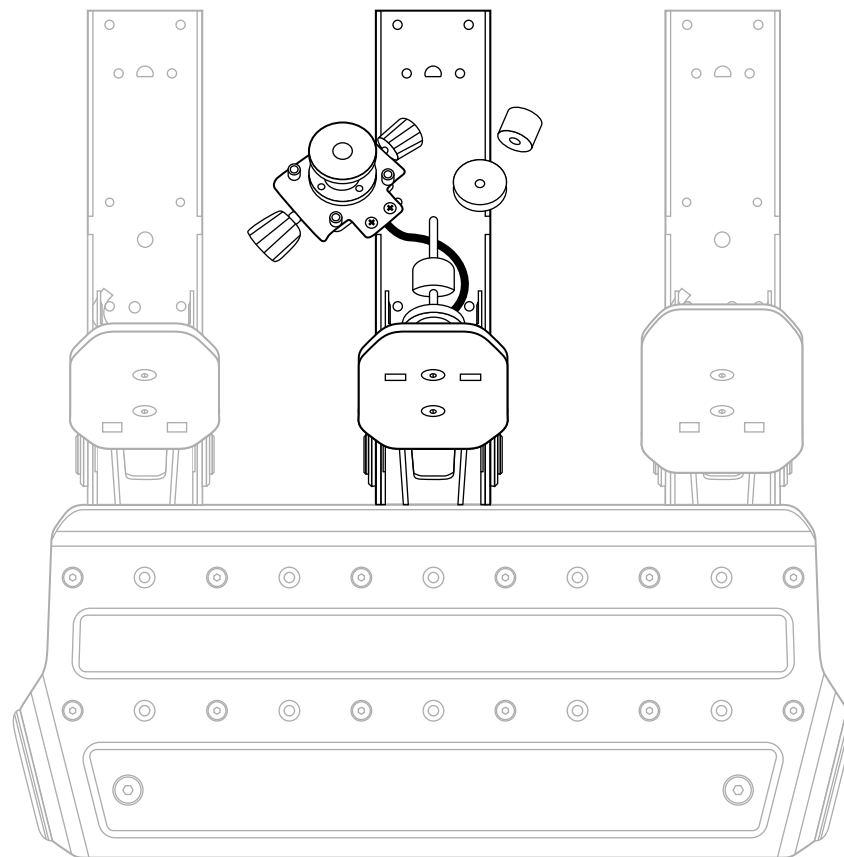
ロードセルブレーキペダルのダンパースタックを使って、ペダルの物理的な感触を好みに合わせて調整できます。このスタックは3つの仕切りで区切られた3つのダンパーで構成されており、交換可能な2つのプラスチック製スペーサーを使って、ペダルからの感触を硬くすることができます。スペーサーの交換方法はとても簡単です。

ペダルの前方から、親指をペダルモジュールの端に置き、人差し指をペダルの両側にあるグリップに掛けます。そして、ペダル面をテコにして指で引っ張ります。



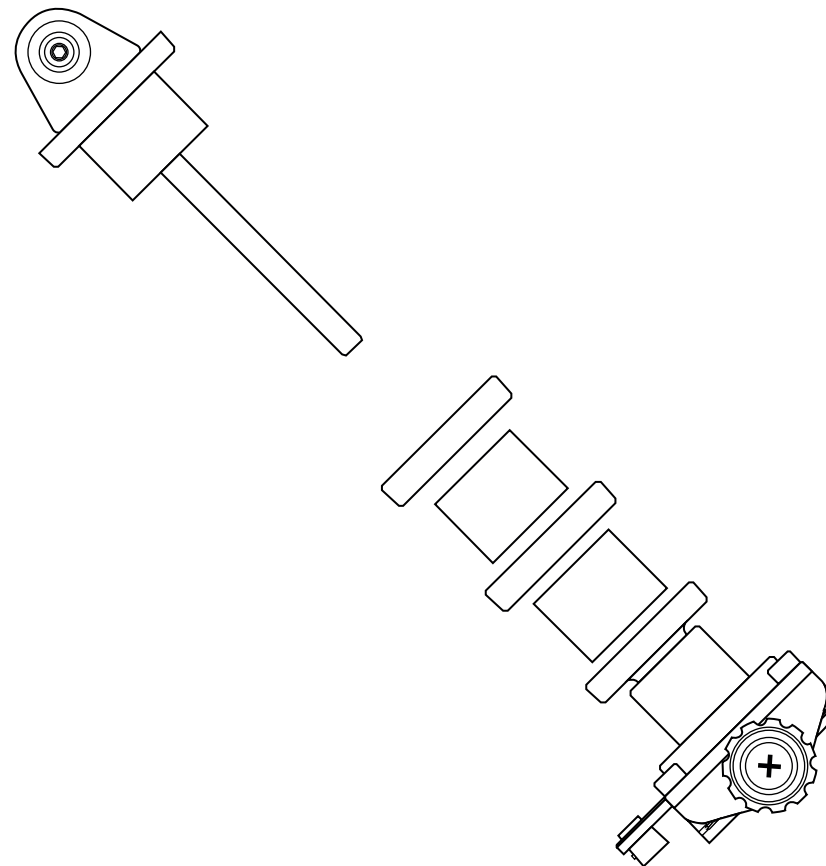
ペダルモジュールのロケーターからスタックを持ち上げて取り外したら、ペダルが乗っているスチールロッドから各コンポーネントを取り外すことができます。ロードセルを内蔵している青いモジュールから始めますが、付属のワイヤーを引っ張らないように注意してください。青いモジュールは、残りの調整を行う間、ペダルモジュールの横の邪魔にならない場所に置いておきます。

ダンパーと仕切りは1つずつ外れます。ダンパーをスペーサーの1つと交換するだけで、ペダルの踏み心地が硬くなります。いろいろな組み合わせを試しながら感触を確認することができますが、ダンパーは必ず1つは付けて、必ずスタックの一番上、ペダルアーム/ペダル面に最も近い位置に配置する必要があります。



再組み立ての際は、必ずダンパー/仕切り/スペーサーを先にロッドに装着してから、最後に青いロードセルモジュールをロッドに装着します。ペダルモジュールからスタックを取り外すときと同じ方法で（親指をデコのように使い、指をグリップに引っ掛けます）、スタックを強く押し込んで、グリップをペダルモジュールのロケータに戻します。

注: より硬いペダルは、一般的にシミュレーターリグ/チェアで RS Pedals を使用する場合にのみ推奨されます。



クラッチペダルの取り付け

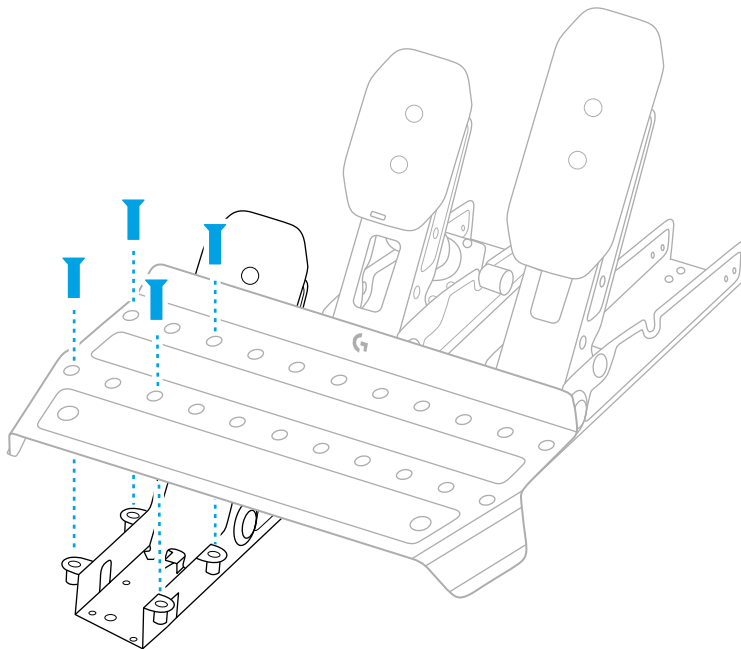
RS Pedals にはクラッチペダル (別売) を取り付けることができます。取り付けプロセスは、RS Pedals を最初に組み立てるときと同じです。ブレーキモジュールが左に取り付けられている場合は、取り外して中央に移動させる必要があります。次に、クラッチペダルモジュールをヒールプレート左側の所定の位置に取り付けます。

そして、クラッチモジュール用のケーブルを、アクセルペダルモジュールの左側にあるクラッチポートに接続します。クラッチペダルのケーブルを、ブレーキペダルモジュールの両側の穴に通し、アクセルペダルモジュールのクラッチポートに届くように配線する必要があります。

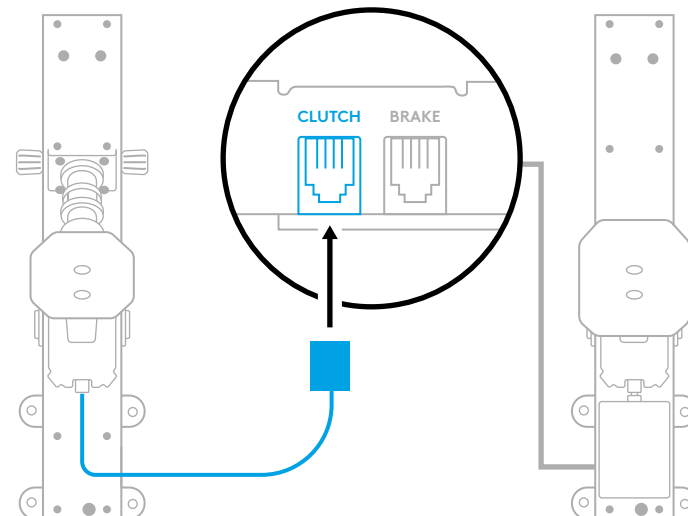
1



x4



2



注: クラッチペダルをロードセルブレーキモジュールの代わりにブレーキとして使用したい場合は、クラッチペダルコネクタをアクセルペダルモジュールのブレーキポートに接続するだけで設定できます。

ロードセルの力の調整

ブレーキモジュールのロードセルは最大75 kg の力を支えることができますが、このレベルの力は通常、RS Pedals をシミュレーターリグ/チェアで使用する場合にのみ適用されます。それでも、最大ブレーキ出力に達するのに75 kg の力が必要なのは過大に感じる人もいるかもしれません。その場合、以下のいずれかの方法で、必要な力のレベルを各自の要件に合うように調整できます。

- ロジクールレーシングホイールの OLED スクリーンの「ブレーキ力」設定を使用（このオプションが表示されるには、ペダルがステアリングホイールの後部に接続されていることが必須）。
- レーシングアダプターを使用して RS Pedals をG29、G920、G923 のホイールに接続している場合は、アダプターのダイヤルを使用。
- PC で RS Pedals を使用している場合は、G HUB を使用。

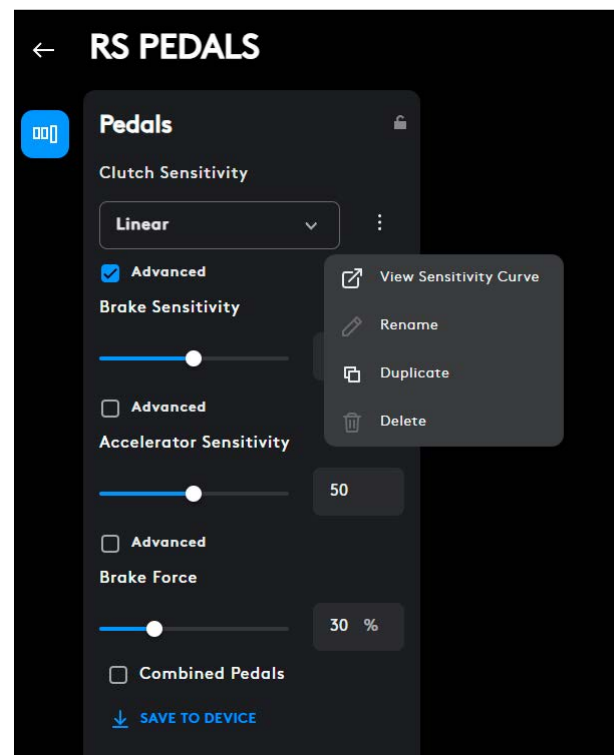
設定した力のレベルはペダルのメモリーに保存されます。ブレーキ力の工場出荷時のデフォルト設定は30% (22.5 kg) です。

G HUB および軸カーブのカスタム調整

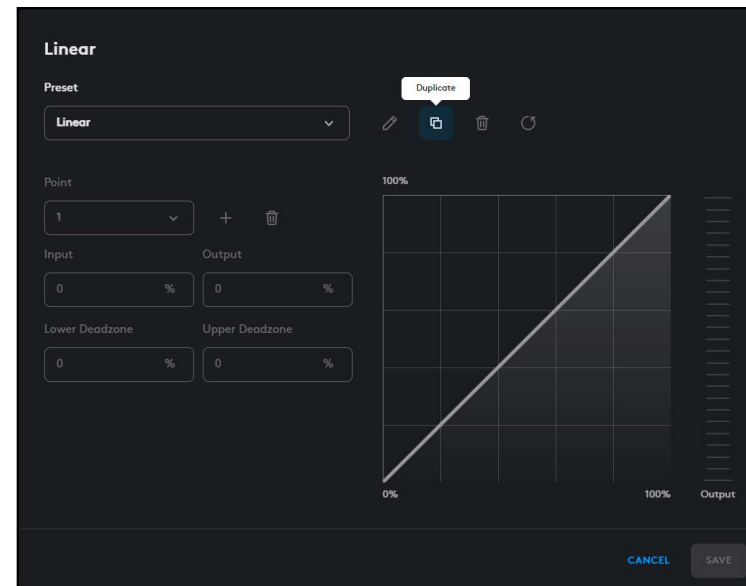
G HUB ソフトウェアを使用すると、ロードセルブレーキのブレーキ力設定の調整や、ペダル反応の感度の調整が可能です。シンプルな感度スライダーのオプションがあり、この設定を50のままにすると、ペダルからの入力と出力が1対1で線形変換されます。スライダーを50より低い値に設定するほど、ペダルを踏み始めたときの感度は段階的に低くなります。逆に50より高い値に設定するほど、踏み始めの感度は段階的に高くなります。

また、デッドゾーンの設定など、感度をよりきめ細かく調整するオプションも利用できます。この機能には、UI の [詳細] ボタンを切り替えることによってアクセスでき、以下のオプションが表示されます。

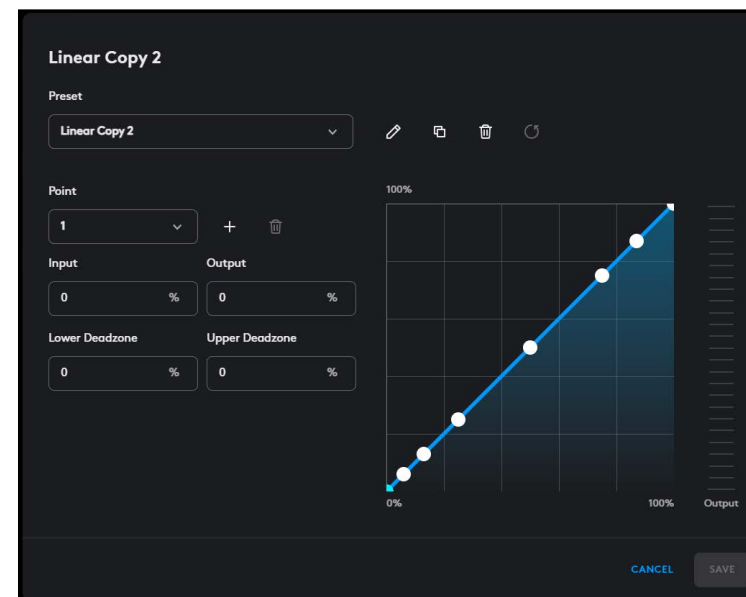
各ペダルの横にある3つの点を選択すると、オプションのドロップダウンリストが表示されます。**[感度カーブを表示]**を選択すると、より詳細な編集メニューが表示されます。



複数のプリセットオプションから選択できます。独自の反応カーブを作成するには、カーブの1つを [複製] アイコンをクリックして複製します。



これで、カーブ上のポイントを動かし、ペダルの反応を希望どおりに設定できるようになりました。横軸は実際のペダルからの入力を、縦軸は出力を表します。

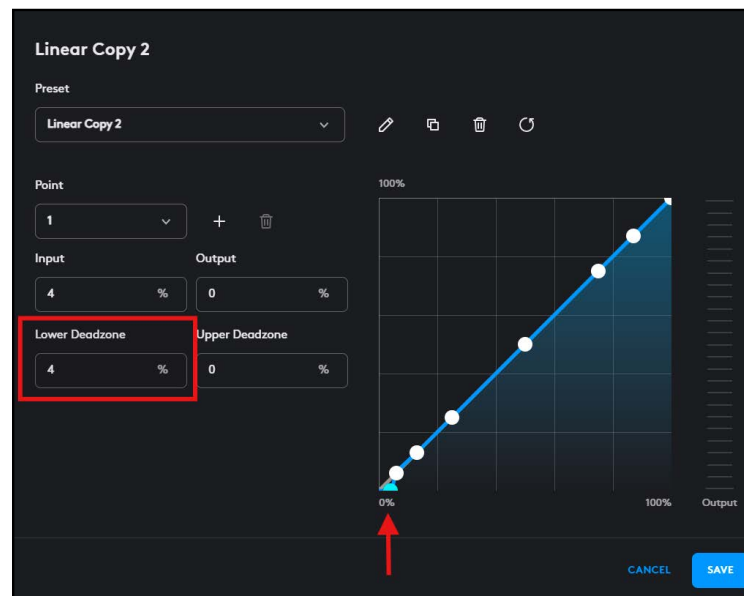


カスタム反応カーブの例

簡単ですが非常に役立つ例として、ペダルの踏み始めにわずかなデッドゾーンを作ること、ペダルに足を置いているときに誤って作動してしまうのを防ぐことができます（例えば、長い直線で左足をブレーキペダルに乗せたままにする場合など）。その場合には2つの方法があります。

- 最初のポイントを、一番低い0%出力を保ったまま右へドラッグする
- [下限デッドゾーン] に必要なデッドゾーンの割合を手動で入力する

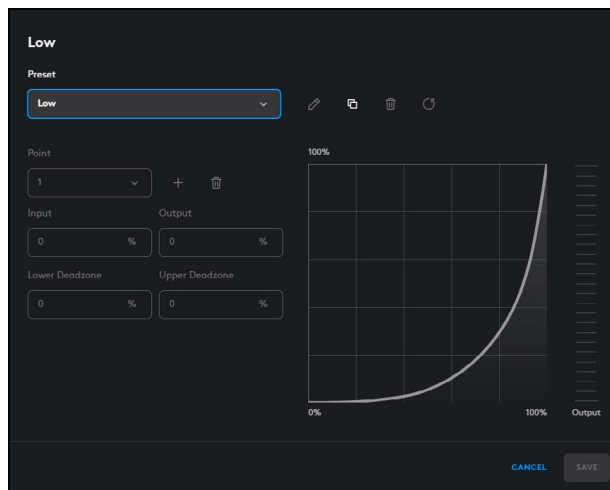
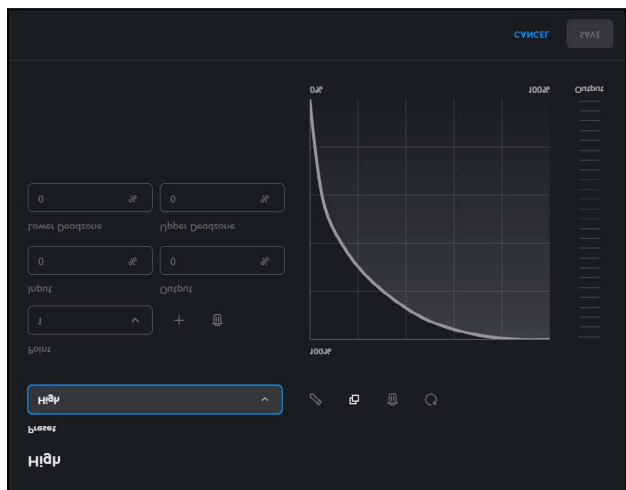
注: カーブの次のポイント値よりも大きな値を手動で入力することはできません。そのように入力した場合、その値は次のポイントの値に設定されるだけです。初期デッドゾーンをより大きく設定するには、2つ目のポイントをさらに右に移動させるか、2つ目のポイントもグラフ下部の0%出力の位置に設定します。



[保存] をクリックして変更をカーブに反映させると、ペダルを踏んで反応が望みどおりかどうか確認できるようになります。右側の反応バーが点灯し、ペダルの新しい出力が表示されます。

その後、作成する他の反応カーブと区別できるように、このカーブの名前を任意の名前に変更します。そのためには、上部にある [名前の変更] アイコンをクリックします。

その他、高感度や低感度のオプション、クラッチペダルのバイトポイントを広げるカーブなど、便利なカーブの例をここで紹介しています。そのためには、選択したシミュレーターのクラッチバイトポイントに一致する正しい軸出力値を見つけるための試行錯誤が必要になります。これは軸出力値がシミュレーターによって異なるためです。



デバイスに保存

PC でペダルを使用する場合には、G HUB を使用すると、いつでもこれらのカスタム反応カーブを切り替えることができます。コンソールでペダルを使用する場合は、ペダルのメモリーにカスタムカーブを保存できます。各ペダルに好みのカーブを設定したら、[デバイスに保存] オプションをクリックするだけです。その後は、対応するロジクール製ステアリングホイールに接続されたペダルをコンソールで使用できます。

↓ SAVE TO DEVICE

推奨されるメンテナンス

RS Pedals は、数百時間継続的に動作しても、使い始めた時と同じ快適性を維持できるように設計されています。ただし実際の車と同様に、簡単な、ほぼ定期的なメンテナンスを行うことで、ペダルを常にきれいな状態に保つことを推奨します。

定期的なメンテナンス (週1回)

- ホコリがたまるのを防ぐため、ペダルモジュールの誇りを掃除機で吸い取ります。
- すべての表面を清潔な湿らせた布で拭きます。

ファームウェア更新

ファームウェア (埋め込みソフトウェアとも呼ばれる) は、RS Pedals のすべての機能を制御するコードです。ロジクールは、機能性を強化するために、定期的にファームウェア更新をリリースする場合があります。これらはG HUBを通して利用可能であり、更新が利用可能になると、ユーザーは通知を受けます。



©2025 Logitech, Logicool. All rights reserved.株式会社ロジクールは、Logitech Groupの日本地域担当の日本法人です。Logicool、Logicool G、Logiおよび各ロゴはLogitech Europe S.A. および/または米国およびその他の国における関連会社の登録商標です。その他の商標はすべて、それぞれの所有者の財産です。ロジクールは、このマニュアルに存在する可能性のある誤記に対して一切責任を負うことはありません。ここに記載されている情報は予告なく変更される場合があります。

WEB-621-002692 002